



子ども議会

～千葉市の未来へつなぐ議会～

公募による市内小学校5、6年生の子ども議会議員が「みんなが住み続けたい千葉市にするために」をテーマに、7グループに分かれて提案や質問を行いました。

学習会で学んだり、自分たちで調べたりしたことをもとに、ファシリテータ役の中学生に支援を受けながら、提案や質問を検討しました。

当日は自分たちの提案や質問を様々な資料を活用し、発表の方法を工夫して伝えることができました。

1 開催の目的

○千葉市の将来を担う子どもたちが、千葉市の現状と課題について話し合い、「市民一人一人がいきいきと幸せに暮らせるまちづくり」に向けた具体的な提案や質問を行う中で、千葉市民としての意識を高める。

○子どもの目線に立った提案や意見を市政に生かす。

2 開催日時 平成29年7月25日（火）9：00～12：00

3 開催場所 千葉市議会本会議場

4 出席者

（1）子ども議会議員53人（公募による市内小学校5、6年生）

ファシリテータ役市内中学生22人

（2）市政担当者

熊谷市長、鈴木副市長、神谷副市長

山田こども未来局長、

磯野教育長、神崎教育次長

（3）市議会議員

小松崎議長、村尾副議長、

秋葉教育未来委員長、亀井教育未来副委員長



5 内 容

(1) 学習会～開催に向けて～

5回の学習会を実施し、市長や市政を担当する職員から千葉市の現状や取組、課題についての話を聞くとともに、自分たちで実施したアンケート調査や現地調査などの結果をもとに、提案や質問内容をまとめました。



＜熊谷市長による講話

「千葉市の現在と未来について考えてみよう」＞



＜テーマごとにグループで協議＞



＜行政担当者との意見交換①＞



＜行政担当者との意見交換②＞

(2) 子ども議会当日

子ども議会議員はグループごとに、自分たちの思いが伝わるように工夫しながら、提案や質問をしました。



＜「学校を魅力的なものにしていこう」グループによるオオガハスの育て方の説明＞



＜「豊かな伝統や文化、歴史をもっと広めていこう」グループによる千葉市の農産物を活用した太巻き寿司の提案＞



＜各グループの提案を真剣に聞く答弁者のみなさん＞



＜議会が終わり、感想を述べる子ども議会議員＞



＜ファシリテータによる議事運営＞



＜グループの提案を支援するファシリテータ＞

（３） 提案・質問の内容

①「学校を魅力的なものにしていこう」グループ

◇これから少子化が進み児童生徒数が減り、空き教室が増えていくと考えます。そのような教室を活用して、「給食でもてなす」「伝承遊びやお年寄りが喜んでもらえる会」等を企画したいです。

◇オオガハスを学校で育て、皆で鑑賞したり、地域の方をお呼びして見てもらったりして、より魅力的な学校にしていきたいです。



○千葉市では、空き教室を放課後子ども教室などで活用しているのはみなさんも知っていると思います。また、防災備蓄品の収納場所としても活用しています。皆さんの提案は、学校と地域とのつながりを深めていくことができる点では、大変有意義な取組みであると思います。自分たちの地域や学校でどのような取組みができるか考えて、実行してみてください。

○市の花であるオオガハスを今回提案をした皆さんの学校でまずは、育ててみてください。是非、地域の方やボランティアの方、学校の先生に相談してみてください。チャレンジすることが大切です。実現に向けて私たちもバックアップしていきます。

②「公共の施設を魅力的なものにしていこう」グループ

◇公共の施設の中でも特に図書館や図書室を魅力的なものにしていこうと以下のように考えました。

- ・表示をわかりやすくすることにより、本を探しやすくするなど、使いやすい図書館、図書室にしたい。
- ・図書館、図書室を活用しての読書量を増やすため、スタンプラリーなどの子ども向けのイベントを多くしたい。



○図書館では、子どものコーナーは低書架を使用しています。公民館の図書室では、絵本などをできるだけ低い位置に配置しています。また、車椅子やベビーカーが通ることができる間隔にもしてあります。今後も様々な方の意見を参考に見直していきます。

○図書館では「まほうの読書ノート」を小学生に配布しています。本を読んだ冊数によってスタンプを押し、50冊読み終わるとプレゼントを渡しています。スタンプラリーなどの皆さんのアイディアも参考にしながら、イベントの企画やPRを工夫していきます。

③「安全に安心して暮らせる街にしていこう」グループ

- ・子ども、外国人など誰にでもわかる図や絵等で表された避難場所を示す看板（ポスター）を設置していただきたいです。
- ・各家庭で備えてほしい防災頭巾の枕を提案します。
- ・障害者の方々は一人で避難することが難しいと考えます。障害者の方の避難を手助けするための訓練の実施を提案します。



○誰にでもわかりやすい表示にするため工夫していきます。また、看板だけでなく、市の広報物等で防災についてもお知らせしています。日頃から意識付けをしていくことも大切です。

○枕が防災頭巾になるというのは、すてきなアイデアです。また、家具を固定すること、手近なもので頭を守ることなど自分の身を守ることを普段から考えておくことも必要です。

○市では、自力で避難できない可能性のある方々を把握しています。誰が助けるといった分担をしたり、そのような方々と一緒に避難訓練を行ったりしている地域もあります。そのような取組をさらに広げられるように、努力をしていきます。

④「2020東京オリンピック・パラリンピックを私たちの力で盛り上げていこう」グループ

- ・歩道橋についてスロープやエレベーターを付けるなどの整備をお願いします。また、必要のない歩道橋は撤去してほしいです。
- ・千葉市でも「オリパラ」が開催されるので、千葉市の魅力をPRするため、特産品であるにんじんを使ったクッキーの作り方を紹介しようと思います。



○利用者の多い駅と公共施設を結ぶ道路等に設置されている歩道橋には、スロープやエレベーターを設置することが増えています。誰でも歩きやすいという観点から、歩道橋の撤去も重要です。車の交通量や利用者の数、交差点の状況などを調査し、撤去しても大丈夫だと考えた場合には地元の方と話し合いながら撤去することを検討します。

○千葉市産のにんじんを使ったちはなちゃんゼリーやにんじんジュースが商品化されています。また、以前にはにんじんを使用したレシピを大学生に考案してもらい、市HPや各種イベントでPRしてきました。今回提案があったクッキーについてもPRする方法を検討します。千葉市全体でオリパラを盛り上げていきましょう。

⑤「豊かな緑ときれいな水辺のある街にしていこう」グループ

- ・花見川サイクリングコースの整備、充実をお願いします。また、自転車専用レーンを増やしてほしいです。
- ・海辺のイベントや施設の充実をお願いしたいです。
- ・子どもたちが、緑や海辺にもっと親しめるように、千葉市の緑と海の新キャラクターを提案します。



- 花見川サイクリングコースを、もっと多くの方に気軽に楽しんでもらえるように、少しずつ充実させていきます。また、「千葉市自転車を活用したまちづくり条例」が7月から施行されましたが、自転車で行けるような場所に行けるようなまちをつくっていきます。
- 現在、稲毛海浜公園のリニューアルに向けて進めているところですので、子どもが行きたくくなるような施設などのハード面やイベントなどのソフト面を引き続き考えます。
- 新キャラクターについては、まずは校内で活用するなどして、皆さんのキャラクターとして親しんでいただけたらありがたいです。

⑥「美しく、みんなが楽しめる街にしていこう」グループ

- ・モノレールや公園の遊具、ごみ収集のパッカー車に千葉市のよさを表現するデザインを施すことを提案します。
- ・スマートフォン等のアプリを活用してゲーム感覚で千葉市の観光案内をできるようにすることを提案します。



- モノレールやパッカー車、公園を活用して千葉市の魅力をPRすることはとても大切なことです。しかし、モノレールやパッカー車に図柄をラッピングすると、かなりのお金がかかります。税金を使うこととなりますので、今後しっかりと考えていきます。また、公園の遊具に関しては、今回の提案を、安全性の面も考えながら、公園を造ったり管理したりするときの参考にします。
- 昨年、スマートフォンのGPS機能を活用した千葉氏ゆかりの地をめぐるスタンプラリーや、本市が舞台のアニメキャラクターのスタンプがもらえるスタンプラリーを実施しました。観光案内への活用については、費用面等において課題もあるので、スマートフォンを持っている人がまちを歩きながら千葉市の魅力を知ることについて工夫をしながら実現をさせていきます。

⑦「豊かな伝統や文化、歴史をもっと広めていこう」グループ

- ・加曽利貝塚、オオガハスをデザインした記念切符をつくるのはどうでしょうか。また、モノレール内で行われるイベントの一つである「空中絵画展覧会」において、加曽利貝塚やオオガハスのPRポスターや絵画を展示するのはどうでしょうか。
- ・千葉市の食材やキャラクターを使った弁当を作成し、駅やイベントで販売する方法を提案します。弁当には、千葉市の魅力が伝わるようなおまけカードを付けたり、パッケージにしたりすることを提案します。



- 今年は加曽利貝塚が特別史跡になります。その時に記念切符を出すというのは、非常によい考えだと思います。また、「空中絵画展覧会」で、加曽利貝塚、オオガハス、千葉氏等のテーマを定めて取り組むことを考えていきます。関係機関とも協議していきます
- 市内産農産物を使った弁当作成については、弁当製造会社に働きかけていきます。また、おまけカードや包装紙の工夫の仕方というのは、お弁当を販売していく上で、とても重要なポイントだと思っています。お弁当の製造会社に働きかけを検討していきます。

6 熊谷市長の講評

一人一人にはそれぞれの意見がありますが、それぞれが言うだけでは実現できない可能性があります。みなさんで話し合っ、みなさんが納得できる提案をしていくことが大切です。それがみなさんの住んでいる地域では自治会に、学校では児童会や生徒会になると思います。それぞれが、所属している方の意見を吸い上げて、全体の意見として交渉、要求していくということが大切です。

今回、グループの中で何回も勉強して、提案内容を考えていく中で、自分の意見とみんなの意見をどのように合わせていくか、悩んだり勉強になったりしたことも多々あったかと思います。千葉市に住む、千葉市に来る、全ての人たちの意見がきちんと届くようにしていく、それが2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて目指すまちづくりだと思います。ぜひこれからも、様々な人たちと積極的に意見交換をしてください。

今日まで真剣に勉強し、提案してくれたことに改めて感謝し、市としては実現に向けて前向きに取り組むことを誓い、私の講評とします。ありがとうございました。

7 子ども議会議員の声から

※一部を抜粋しています

私は発表が苦手でしたが、子ども議会を通して発表に挑戦してみようと思いました。違う学校の人と協力して発表することや本当の議場を利用することができ、よい経験になりました。

自分が参加し体験したこと、提案したことを学級で伝えたいです。そこでもいろいろな意見を出し合い、まとめ、さらに学校全体に伝えたいです。

自分が、今困っていること、不便に思っていることに対して、子ども目線での改善方法を提案しました。それを市長さんにわかってもらえたことがよかったです。

学校での話し合いのときに、子ども議会の形式はよいお手本になると思いました。また、ファシリテータを務めたことで、適切にサポートする力や伝える力を学ぶことができました。

8 提案の実現！！



⑦「豊かな伝統や文化、歴史をもっと広めていこう」グループ

⑦グループから出た提案「キャラクターを使ったお弁当で千葉市の魅力を広める」を市内の小中学生が商品化に向けて活動し、弁当製造会社の協力を得て実現しました。実際に11月の1か月間、万葉軒要売店や千葉そごう万葉軒売店（地下1階）などで販売されました。

編集・発行：千葉市教育委員会学校教育部教育指導課